

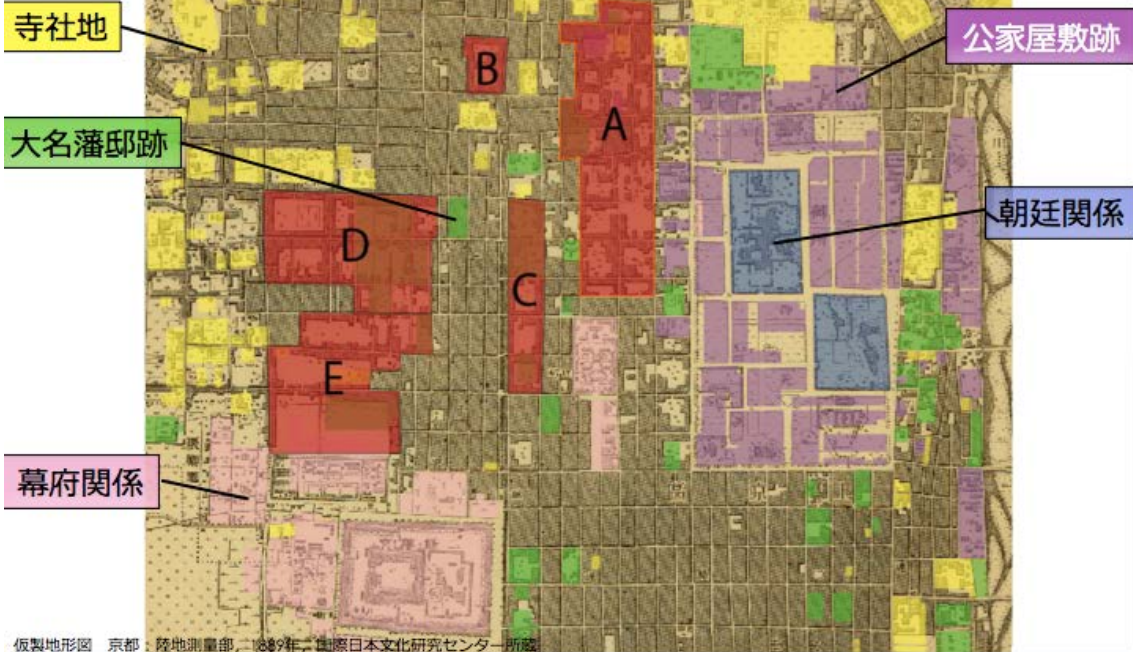
平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A29	取組 名称	近代京都の市街地の形成と建築様式・用途との関連性に関する研究
研究代表者：生命環境科学研究科・教授 大場 修			
研究担当者：(敬称略) 外部分担者：矢野桂司(立命館大学・教授) 高田光雄(京都大学・教授) 福島幸弘(京都府立総合資料館・庶務課・副主査) ほか			
主な連携機関(所在市町村、機関(部署)名)			
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター、京都府立総合資料館歴史資料課、立命館大学など			
【研究活動の要約】			
<p>今年度は3年度計画の初年度として試行的に西陣地区をとりあげ、街区中央部の農耕地における明治末期から昭和初期にかけての宅地化の形成過程を実証的に明らかにした。まず、明治22年発行の仮製地形図(京都)を用いて(次頁図)、西陣地区におけるこの種の裏宅地がどのように市街地化されたのか、各種地籍図や京都市明細図を用い詳細な検討を行った。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>具体的には、仮製地形図(京都)から把握した、街区中央部において空白域が目立つ地域を5地区取り挙げ(A~E各地区)、上京区地籍図を用いてさらに検討した。上京区地籍図は、内務省から地籍調査の実施が通達され、これを受け京都府では明治17年に調査を開始、明治17年末頃までに調査を終え京都府へ提出されたものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宅地化の時期は、土地台帳から地目変換の項目で把握でき、宅地への地目変換は、広さが多様で、隣接する農地を纏めて宅地化する状況も見てとれ、多くは長屋街区となったことを確認した。 ・以上の5地区は、明治22年発行の仮製地形図ではいずれも空白地が確認できたが、明治17年末までの情報が記載されている上京区地籍図では、室町中長者町(A)・堀川今出川(B)・堀川下立売(C)の地区で既に宅地化が進められている状況が窺えた。しかし千本上長者町(D)・千本丸太町(E)地区については多数の畑地が存在しており、街区中央部における宅地化時期の時間差が確認できた。 ・したがって、上京区において宅地化の時期には地域差があり、東側の地域から西側へと宅地化は順次進行していたことが明らかにした。 			
【研究成果の還元】			
<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会、H26/9/25、於『立命館大学歴史都市防災研究所カンファレンスホール』参加者15名 ・赤石直美(立命館大学歴史都市防災研究センター客員研究員)を招いた『京都市明細図』に関する検討会、H27/1/27、於：京都府立大学、参加者20名 ・橋本歩美・林千尋・赤石直美・大場修「近代京都における市街地の拡張過程に関する研究-西陣および周辺地区を事例として-」『日本建築学会近畿支部研究報告集』2015,6月 ・大場修・林千尋・橋本歩美・赤石直美「京都西陣地区における近代の市街地形成について」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2015,9月 			
【お問い合わせ先】 生命環境科学研究科 史的住環境学研究室 教授・氏名 大場 修			
Tel: 075-703-5419		E-mail: oba@kpu.ac.jp	

参考 (イメージ図、活動写真等)

検討対象地区 (A~E地区)

明治22年 仮製地形図(京都)



仮製地形図 京都：陸地測量部、1889年、国際日本文化研究センター所蔵



図1 裏宅地の地目変換時における土地所有状況図 (D地区、千本上長者町周辺)

凡例	
宅地	畑地
学校敷地	墓地
警察所敷地	